

令和元(2019)年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	翻訳規範とコンピテンスの可操作化を通じた翻訳プロセス・モデルと統合環境の構築
研究代表者	影浦 峽 (東京大学・大学院情報学環・教授) ※令和元(2019)年7月末現在
研究期間	令和元(2019)年度～令和5(2023)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>本研究では、翻訳プロセスをアクターの行為とアイテムの操作として記述し、規範とコンピテンスに対応した翻訳プロセス・モデルを構築することを目的として、翻訳実務プロセスの明確化、メタ言語の設計と評価、翻訳プロセスの実装、統合的翻訳環境及び翻訳学習環境の構築と提供・評価などを計画している。</p> <p>翻訳プロセスをモデル化して翻訳文の質の向上及び翻訳教育環境を構築・整備しようとする研究で学術的意義が高く、実証実験を通して研究成果を積極的に公開することによる社会への波及効果が期待できる。研究組織は当該分野で優れた実績をもつ研究者から構成されており、十分な研究遂行能力を有している。</p>